

西光寺だより

第八十五号 平成二九年 九月一日発行

だいぶ涼しく感じられる季節になってまいりました。今年の夏も暑かったですが、皆様体調はいかがでしたでしょうか。私自身も、頭から流れてくる汗を拭きながらお参りをさせていただいたことであります。

毎月のお速夜のお勤めの後いつも『御文章』を拝読させております。『御文章』というものは本願寺第八代蓮如上人が親鸞聖人のみ教えを、誰にでも分かり易くしたためられたお手紙であります。今回はよく読まれている「聖人一流章」にふれてみたいと思います。

聖人一流の御勸化のおもむきは・信心をもって本とせられ候、そのゆえは・もろもろの雑行をなげすてて・一心に弥陀に帰命すれば、不可思議の願力として・仏のかたより往生は治定せしめたまう、その位を・一念発起入正定之聚とも釈し、そのうえの称名念仏は・如来わが往生を定めたまいし、御恩報尽の念仏と・こころうべきなり、あなかしこ あなかしこ

【意訳】

親鸞聖人のひらかれた浄土真宗のみ教えでは、信心が根本です。そのわけは、自力のはからいを捨て、一心に阿弥陀如来に帰命すれば、思いも及ばないすぐれた本願のはたらきによって、如来が私たちの往生を定めてくださるからです。往生が定まったその位を、「**一念発起入正定之聚**」と示されています。そして信心を得た後に称える念仏は、如来が私の往生を定めて下さったご恩を報じる念仏であると心得るべきです。まことにおそれ多く、尊いことであります。

●「**一念発起入正定之聚**」・信心いただくと同時に正しく往生に定まった聚(なかも)の身になる

ただ阿弥陀如来におまかせする信心によって往生が決定し、信心の身となつたうえの念仏は、阿弥陀如来への仏恩報謝(感謝)であることを簡潔に述べられています。すべての人々を、喜びのままに生きるよう心から念願されている蓮如上人のお心にふれるようであります。

合掌

◆先月の報告◆

①八月十五日(火) 西光寺本堂にて孟蘭盆会法要を厳修致しました。多くのご門徒の皆さんと仏説阿弥陀経のお勤めをし、お焼香をさせていただきました。

先に亡くなられた方々を偲ばせて頂きながら、いのちにふれる法要となりました。また戦後七十二年という、終戦記念日でもありました。私たちは多くの命の上に今いるということを、孟蘭盆会法要と同じく、今あるいのちに感謝の思いでお勤めさせていただきました。

また、新たな試みでわたくし住職が皆様の前で法話というか、お話をさせていただきますました。永代経や報恩講の際にお話される布教師さんのように、本格的にさせていただくつもりでしたが、知っている方々への緊張とあせりで、二〇分くらいのはずが、だいぶ時間が延びてしまいました。申し訳ありませんでした。しかし、このような貴重な時間をいただきましたこと感謝でございます。ありがとうございました。

これからも時間があればチャレンジしていきたいと思っておりますので、よろしく願います。



②八月二十三日（水）西光寺本堂にて木村家初参式を厳修致しました。
 新たないのちの誕生を仏様にご報告させていただきました。皆さんの命は
 ポツと出てきたものではありません。多くの命のバトンによって繋が
 り届きました。多くの先人の方々が仏さまとなつて繋がるいのちに、仏の
 言葉の意味が、しみじみと伝わる思いが致しました。
 暑い中でございましたが、共に同じ時間を過ごさせていただいたこと感謝
 であります。ありがとうございます。



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺
 大阪府茨木市西河原一七一一
 電話 〇七二一六二二一四七九四
 FAX 〇七二一六二二一九二九一
<http://www.osaka-saikouji.net/>

◆九月・十月の行事◆

・九月〇 在家報恩講

※毎月のお逮夜日を報恩講のお飾りでお待ち下さい。

・九月十四日（木）

大谷本廟墓参（みのり講・穂積講の方）

午後二時

大谷本廟お茶所

※なお、墓参の際、念珠・経本・千円を宜しくお願い致します。
 行かない方は千円を西光寺又は出席される方におことづけ頂
 きますようお願い致します。年に一度の皆さままでの大谷本廟墓参、
 お参り致しましょう。

・九月二十二日（金）

仏教婦人会報恩講

午後一時

西光寺本堂

・九月三〇日（土）

秋季永代経法要

午後二時・午後七時

西光寺本堂

◎御法話 布教使 北島 晃融 師